広報市民リポーターだより
第3回

今回は、渡邊リポーターが保健所や秋田犬保存会などで、忠犬ハチ公で知られる犬の街としての、大館の現状と課題をリポート。本多リポーターは文化活動による人と人とのコミュニケーションに視点を置き、長く活動を続けている大館吹奏楽団を取材しました。

『犬の街……大館』

リポーター　渡邊誓子（幸町）

「忠犬ハチ公のふるさと大館」とは、だれもが知っていることです。しかし、ハチ公が生まれたところというだけで、大館に来れば秋田犬が見られるとか、犬にとって住みやすい街であるとか、何か誇れることがあるでしょうか？

私はぜひこのことを取材したいと思い、まずは犬の現状について大館保健所の方にお話を伺いました。

大館市には現在、秋田犬をはじめ雑種など四百頭以上の犬が登録されているそうです。しかし、心ならずも放し飼いをしたり、捨ててしまったりする人も後を絶たないとのこと。また、ある新聞に「ごみ収集所に子犬を捨てる」という投書記事が載ったのは、つい三カ月位前のことでした。

保健所の方は、犬を飼っているすべての方々へ送るメッセージとして「生き物は人間と同じなんですよ。飼い主の人は最後まで飼い続けてほしい」と話しています。今の状況ではとても、犬にとって住みよい街とはいえないようです。

続いて、観光物産課の方や秋田犬保存会の方にもお話を伺ったところ、「犬と人との調和のある暮らしを見せる街づくり」を目指して『犬の公園』もしくは『犬の牧場』という構想もあるようでした。実現させるにはまだまだ多くの問題があるとのことでしたが、あきらめずに、前向きに考えていきたいと話していただきました。

今回の取材で、秋田犬会館を恥ずかしながら初めて見学させてもらいました。ハチ公や秋田犬の歴史はとても良くわかるのですが、それに加えて犬と直接触れ合うことができる場所があれば素敵ですし、会館がもっと楽しくなるのではないかと強く感じました。ぜひ、実現に向けて頑張っていただきたいと思います。

「忠犬ハチ公のふるさと大館」として誇れることは、今のところ見当たりませんでした。けれどもせめて、放し飼いや捨て犬のない街として誇れるよう、市民の皆さんへお願いしたいと思います。私の家でも犬を飼っています。もちろん最後まで面倒をみたいと思っています。

大館保健所で

『文化活動に目を向けて』

リポーター　本多新悦（餌釣）

大館市内には、ジャンルは違えども音楽活動を続けているサークルがいくつかあります。今回は、その中でも私が最も興味を持っていた「大館吹奏楽団」を訪ねました。

当楽団は昭和五十六年六月に「大館市民吹奏楽団」として誕生し、今年十二年目を迎えるという息の長いサークルの一つです。マーチ、ジャズに力点が置かれていますが、ジャンルにこだわらず、クラシックからカラオケまでいろいろな音楽に挑戦しているそうです。また、海上自衛隊大湊音楽隊との合同演奏会や春・秋二回の独自の演奏会、比内養護学校への慰問コンサート、吹奏楽コンクールへの出場など、年間を通して活発に活動しています。平均年齢二十四、五歳という若々しいサークルでした。「団員は、大館市内はもちろん、比内、鷹巣、鹿角、小坂と広域にわたっていて、技術の向上に努めるのはもちろん、吹奏楽を通して人間的にも成長することを目標に、日々練習に励んでいます」と柏葉団長。また「この活動の副産物として、文化活動の面へ良い刺激を与えられるようになれば、私たち自身の活動ももっともっと長く続けて行けると思っています」とも話しておられました。

今の時代、買物に行ってもスーパーマーケットなどではほとんど人と口をきかずに済んでしまいます。バスもワンマンカーになりました。駅には自動券売機が置かれるなど、一日外出しても、生身の人間とのコミュニケーションがほとんどないように思います。知人以外の人との交流が苦手な人が増えてきている今、吹奏楽団などのような文化活動に、もっと目を向ける必要があるのではないでしょうか。一つのことについて語らう楽団の皆さんを拝見し、こういうゆとりの時間を持たなければならないなと反省させられました。

現在の団員数は四十五人でしたが、まだ足りないパートがあるそうです。思い切り楽器を楽しみたい人は、事務局へご連絡くださいとのことでした。

【事務局】比内町片貝字伊勢東野呂酒店内　☎55―0853

右から2人目が本多リポーター
4人目が柏葉団長です

☆広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載しています